

一人一人が満足感・充実感を味わえる取り組みについて

砂子阪 誠 (富山北部・水泳) 吉田 哲也 (砺波工業・卓球)
 照井 克朗 (石動・ソフトテニス) 奥澤 真一郎 (新湊・サッカー)
 荒城 正人 (富山いずみ・ソフトボール) 水上 達志 (滑川・レスリング)
 河合 智志 (富山商業・テニス) 新井 健史 (石動・ホッケー)
 渡辺 富雄 (雄峰・定通) 寫田 豊 (富山中部・アーチェリー)
 笠原 智子 (魚津・ソフトテニス) ※平成19～20年度

1 はじめに

第2分科会は、それぞれ学校・専門部が違う10人で構成されました。最初にテーマがあって集まったのではなく、部活動についての各学校や専門部の様子の情報交換そして意見交換から共通したテーマを模索することから始まりました。

情報交換から雄峰高校以外どの学校も部活動に関して、部員不足、生徒の部活動離れ、指導者不足・高齢化、7限授業等での活動時間の減少等の共通の問題を抱えている様子が見られました。雄峰高校は、運動部の同好会が新たに6部発足する等部活動に取り組む生徒が増えている報告があり、また自由な雰囲気の中で部活動に取り組んでいる様子が伺えました。

部員不足・部活動離れの問題については、魅力があるなら人が集まるであろうと考え、部活動の”魅力”(満足感・充実感)とは何だろうとの疑問がでてきました。会議を進める中で運動部活動の魅力とは、1つはスポーツ・運動の本質的なもの、もう1つは仲間との活動にあると考えました。平成20年度全国高体連研究大会の分科会で、助言者の大学教授から、「一次的には、生徒は自己実現のために部活動を行っている。」との発言もありました。運動部活動の魅力(満足感・充実感)をあらためて認識する必要を見いだしました。

今回のテーマを「一人一人が満足感・充実感を味わえる取り組みについて」とし、そして仮説は「運動部活動の特性の一つに仲間との活動があり、その集団への所属感・一体感を高めれば部活動への満足感・充実感も高まる」としました。仲間との活動に焦点を絞り運動部活動の魅力に迫ることにしました。

2 研究の方法、実施時期及び対象

- (1) 質問紙によるアンケート調査(無記名方式)
- (2) 実施時期 平成21年3月～5月
- (3) 調査対象(第2分科会の研究部員所属の当該学校の運動部)
 - ①富山北部高校64名
 - ②砺波工業高校113名
 - ③魚津高校83名
 - ④新湊高校78名
 - ⑤富山いずみ高校86名
 - ⑥滑川高校45名
 - ⑦富山商業高校88名
 - ⑧石動高校77名

合計634名

3 結果

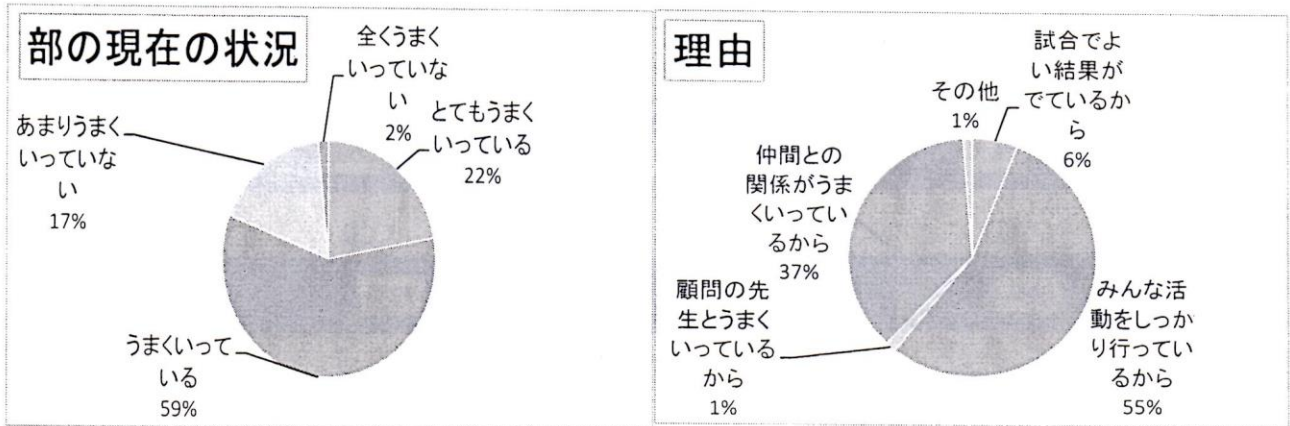
主に回答の多かったものと、興味深いものを取り上げてみた。

男子362名、女子272名が回答

質問内容及び回答		男子	女子
(1)	部活動を選んだ理由は。 競技に興味がある	44%	46%
(2)	部に目標があるか。 ある	90%	87%
(3)	部の目標と個人の目標は同じか。 同じ	75%	76%
(5)	部活動の休みは。 週1日程度	35%	46%
(6)	部の現在の状況は。 うまくいっている	74%	93%
(7)	どんな時うまくいっていると感じるか。 みんな練習に一生懸命 仲間との関係がよい	56%	61%
		10%	16%
(8)	どんな時うまくいってないと感じるか。 練習に一生懸命でない 仲間との関係が悪い	51%	36%
		17%	35%
(10)	部の顧問は練習に来るか。 ほとんど毎日来る	56%	56%
	顧問は怒ることがあるか。 たまに怒る	55%	49%
	顧問はほめることがあるか。 たまにほめる	59%	65%
(11)	練習をどのように行っているか。 部長の指示	43%	49%
(12)	部活動の「楽しさ」と「厳しさ」についてどう思うか。		
	「楽しさ」が最も重要で「厳しさ」も多少は必要	55%	70%
(13)	部活動はどうあるべきだと思うか。		
	顧問の指示のもと、トップを目指したい 顧問のアドバイスのもと、そこそこ勝ちたい	51% 31%	39% 45%
(14)	部活動でどんなとき充実感を感じるか。 練習したことが身についたとき	37%	34%
	試合に勝てるようになったとき	36%	25%
	みんなで一生懸命頑張っているとき	17%	29%
(15)	現在の部活動に満足しているか。 とても・だいたい満足している	73%	88%
(16)	部活動に一番何を求めるか。 よい結果を残すこと	28%	20%
	精神面の強さを身につけること	24%	34%
(20)	部活動が生活に占める割合は。 かなりを占めている	43%	53%
	まあまあを占めている	47%	40%
(23)	部に入部してよかったと思うか。 非常によかった・よかった	86%	98%
	その理由は。(2つ回答) 目標に向かって頑張ることができているから	51%	54%
	スポーツの楽しさを十分に味わっているから	64%	43%
	目標を同じくする仲間ができたから	31%	55%

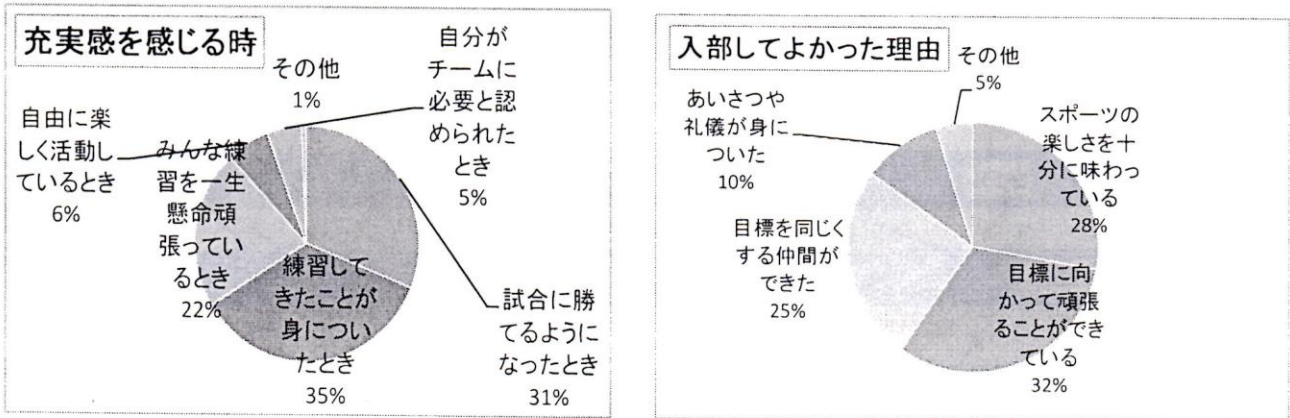
4 考察

(1) 考察1 全体



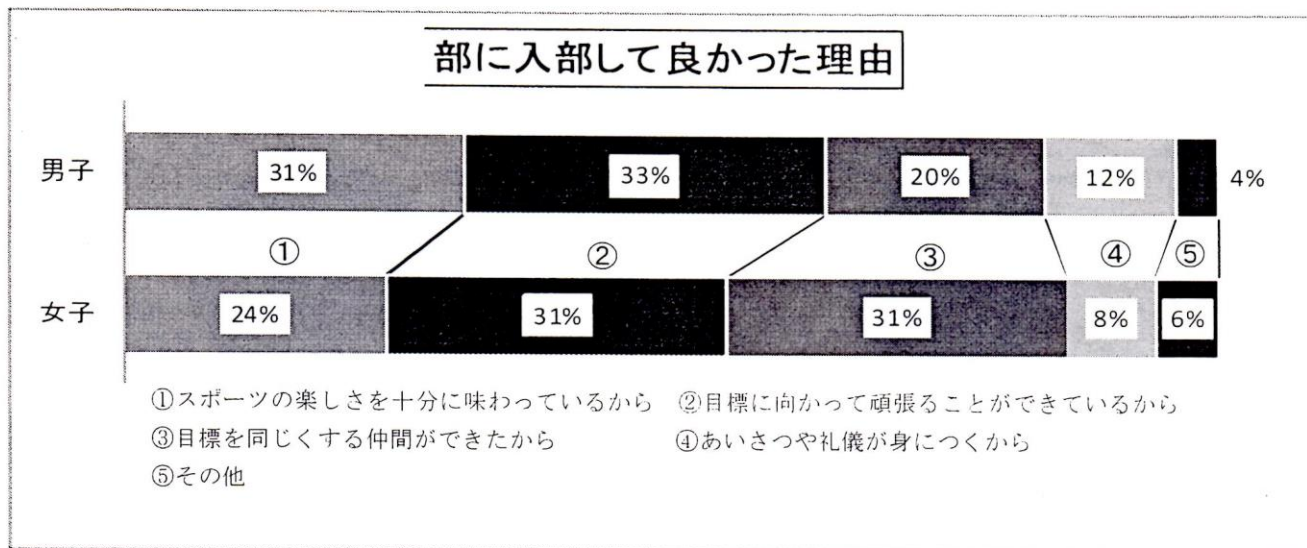
男女合わせて646人のアンケート結果から、「とてもうまくいっている」と「うまくいっている」を「良好」と見なすと、部の現在の活動状況は81%が「良好」である。「うまくいっている」理由は、「皆が活動をしっかり行っている」54.9%、「仲間との関係がうまくいっている」36.7%と大きい。「試合で良い結果が出ている」5.9%、「顧問の先生とうまくいっている」1.4%と小さかった。部活動の基盤が日頃の練習にあり、仲間重視の様子が再認識された。

一方、部活動が「良好にっていない」が123人おり19%で、理由として「良い結果がでていない」から、「顧問と関係がうまくいっていない」から、「皆が活動をしっかり行っていない」からと続いた。部活動の志向は「トップを目指したい」45.9%、「そこそこ勝ちたい」36.6%とあり競技志向(82.5%)である。このことから試合の良い結果が部活動の良好な活動に結びつくと考えられる。良好な活動に顧問との関係は少ないが、逆に良好でない活動には顧問の関係が大きい。

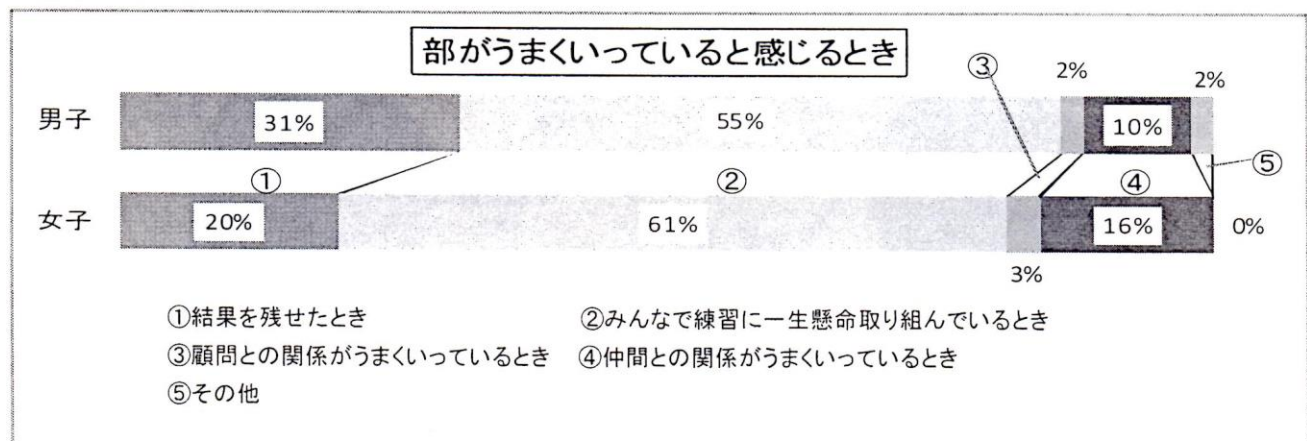


部活動での充実感を感じる時では、「練習してきたことが身についた時」35.1%、「試合に勝てるようになった時」31.0%、「皆が練習を一生懸命頑張った時」21.9%が多かった。「自由に楽しく活動している時」6.3%、「自分がチームに必要と認められた時」5.0%は少なかった。運動部活動の充実感、スポーツ・運動の特質にあり、運動技能が向上し試合ができる、さらに勝利することと考える。「入部して非常に良かった」と「良かった」を合わせると90.9%となった。理由は、「目標に向かって頑張っている」31.9%、「スポーツの楽しさを十分に味わっている」27.8%、「目標を同じくする仲間ができた」25.3%と続く。この「良かった」を満足感とすると部活動の満足感、部活動の活動の部分にあると考える。つまり満足感、組織として目標を持ち仲間と目標達成のために活動を頑張る過程にある。満足感と充実感とは、同じではなく多少の感じどころが違う。満足感、仲間との活動的な部分にあり、充実感、スポーツ・運動の本質的な部分にある。

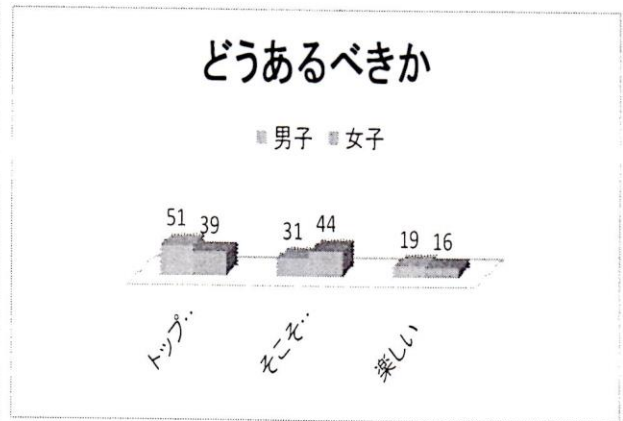
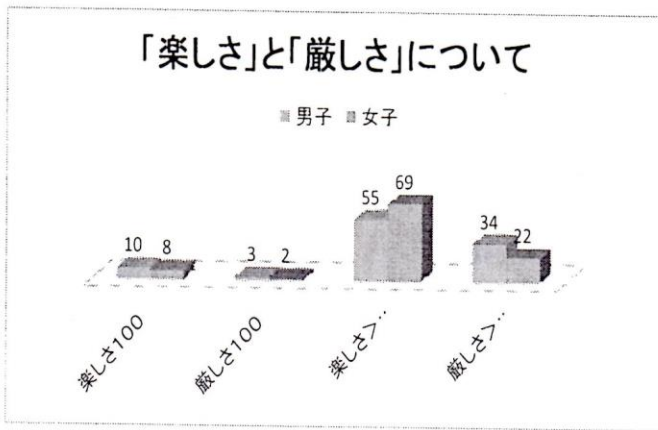
(2) 考察2 男女別



ここでは男女による部活動への意識の違いに焦点を当てたい。部活動に入部してよかったと答えた生徒の理由を男女別に比較してみると、男子は「目標に向かって頑張ることができているから」33%、「スポーツの楽しさを十分に味わっているから」31%が大きな割合を占めているのに対し、女子は「目標を同じくする仲間ができたから」31%、「目標に向かって頑張ることができているから」31%となっている。女子にとっては部活動における仲間の存在が大きいことがわかる。ただ、部活動を選んだ理由の中で「友達に誘われたから」と答えた生徒は男子が15%、女子が8%と先程の結果と逆になっているのは興味深いところである。単純に考えると男子は入部の際に友人の影響を受けやすいが、入部後は自分で競技に目標を持って頑張ったり、その競技を楽しんだりする傾向がある。女子は入部の際は友人よりも自分の意志を優先させるが、入部後はその競技に対し頑張るだけでなく、仲間と共に活動することが大切になってくるようである。



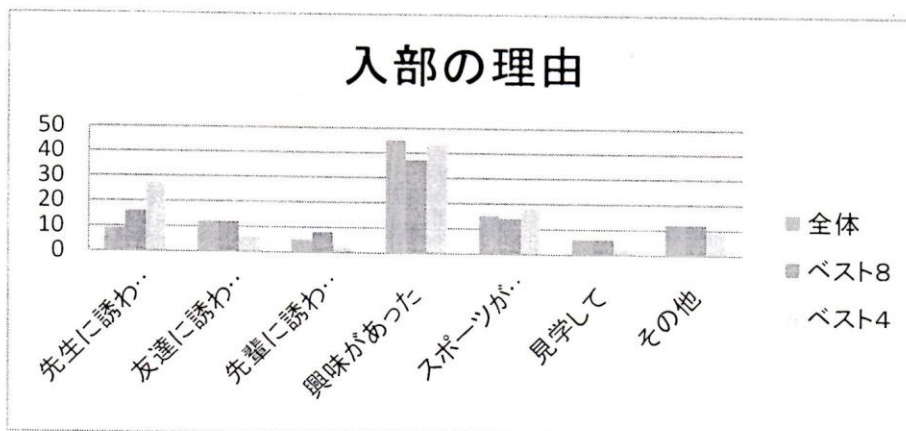
さらに上のグラフを見てもらいたい。「部がうまくいっていると感じるとき」という問いに対して「みんなが一生懸命取り組んでいるとき」と回答した割合は男子が55%、女子が61%、「結果が残せたとき」と回答した割合は男子が31%、女子が20%となっている。男子は女子より結果を残したいと考えている割合が多いのに対し、女子は男子よりも部活動の過程、つまり仲間との一体感、連帯感を大切にしているのがわかる。ちなみに「部活動がうまくいっていないと感じるとき」という問いに対して「みんなが一生懸命取り組んでいないとき」と回答した割合は男子が51%、女子が36%と最も多い。次いで多い回答は男子が「よい結果を残せなかったとき」の23%で先程の結果を裏付ける結果となっているが、女子は「仲間との関係がうまくいっていないとき」という回答が35%となっている。このことから女子は男子以上に仲間との関係が部活動に大きな影響を及ぼしている



「楽しさ」と「厳しさ」に対する意識では、男女とも「どちらとも必要」が多かった。男子では「厳しさ」重視で「楽しさ」も必要が34%で女子の22%を上回った。逆に女子では「楽しさ」重視で「厳しさ」も必要が69%で男子の55%を上回った。部活動の志向では、男子は「トップを目指したい」51%、「そこそこ勝ちたい」31%で女子は「そこそこ勝ちたい」44%、「トップを目指したい」39%であった。部活動の充実感では、「練習したことが身についたとき」が男子37%女子33%と最も多かった。2番目は男子では「試合に勝てるようになったとき」36%、女子では「皆が練習を一生懸命頑張ったとき」29%となった。

運動部活動は、男女とも運動技能の向上が最も重要である。男子は勝利が第2で「厳しさ」も勝利のために重視している。女子は仲間との活動が第2で「厳しさ」も必要と考えながら「楽しさ」を重視である。男子は充実感を女子は満足感を求める傾向にあると考える。

(3) 考察3 競技力別（全体：全回答、ベスト8：県大会ベスト8、ベスト4：県大会ベスト4以上）

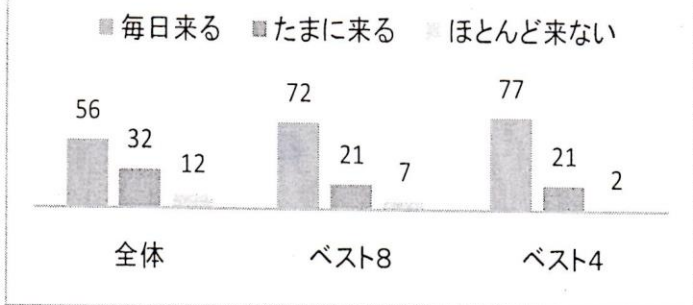


部活動を選んだ理由では「その競技に興味があった」が全体で45%、ベスト8で37%、ベスト4で43%と最も多かった。続いて全体では「スポーツが好き」15%「友達に誘われた」12%、ベスト8では「先生に誘われた」16%「スポーツが好き」14%、ベスト4では「先生に誘われた」27%「スポーツが好き」18%となった。

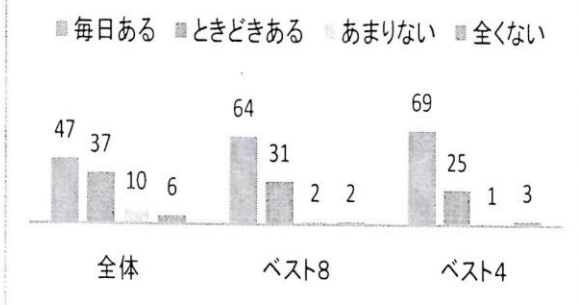
活動状況で「良好」は、全体82%、ベスト8で82%、ベスト4で88%と大きな差異はなかった。その理由では、3つとも「皆がしっかり活動」「仲間との関係が良い」「試合で良い結果」の順であった。割合は全体で55・37・6%の順、ベスト8で56・33・9%の順、ベスト4で59・27・11%の順であった。

ベスト4では27%、ベスト8では16%が先生の勧誘で入部しており競技力向上の大きな要因と考える。競技力に差があっても活動状況の「良好さ」に大きな差はなかった。仲間との活動は競技力に関係ないと考える。

顧問の練習に来る割合



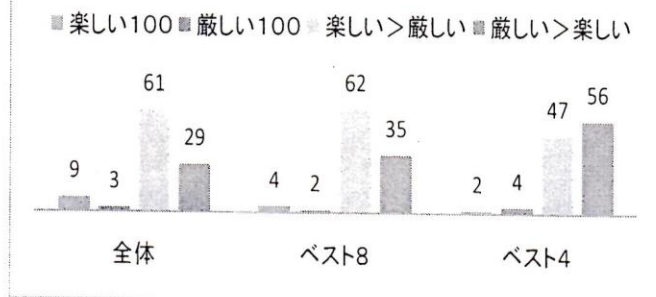
顧問のミーティングの割合



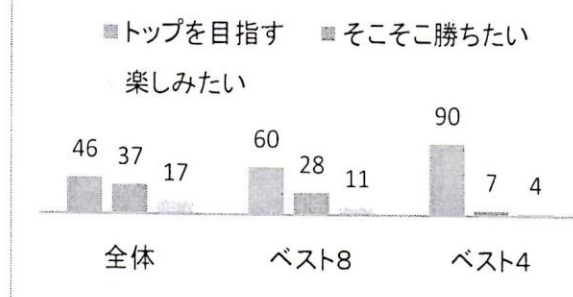
部の顧問が練習に来る割合は、全体が「ほとんど来る」56%「たまに来る」32%「ほとんど来ない」12%、ベスト8が「ほとんど来る」72%「たまに来る」21%「ほとんど来ない」7%、ベスト4が「ほとんど来る」77%「たまに来る」21%「ほとんど来ない」2%であった。「顧問の話（ミーティング）はありますか」では、「ほぼ毎日ある」「ときどきある」を合わせると全体が84%、ベスト8が95%、ベスト4が94%であった。「あなたのチームの目標の有無」で「ある」は、全体89%、ベスト8で97%、ベスト4で94%であった。

競技力と顧問の関与の度合いがきれいに正比例していることが明らかになった。また競技力の高いほうが目標を明確にしている傾向にあり顧問の関与が大きいと考える。特にベスト8で目標が97%と高くチームの士気が高くなっていると考えられる。

「楽しさ」と「厳しさ」

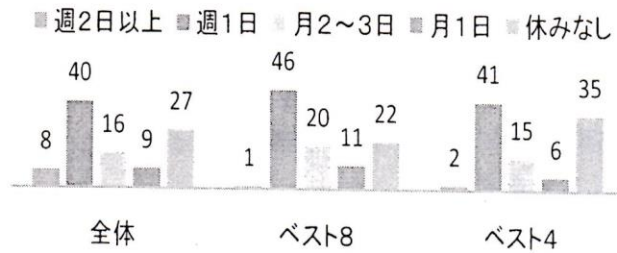


どうあるべきか

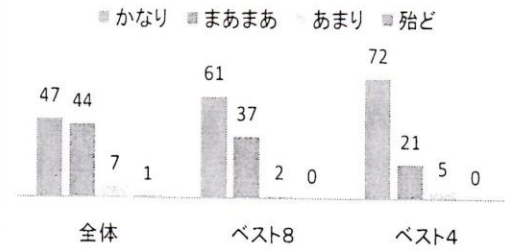


競技別の意識について焦点を当てた。「楽しさ」と「厳しさ」に対しては、全体・ベスト4・ベスト8ともに「楽しいが全て」と「厳しいが全て」は少なかった。「どちらも大事」ということだが、「楽しい」と「厳しい」のどちらを重要視するかで違いが見られた。「楽しさ」が最も重要で「厳しさ」も多少は必要が全体で61%、ベスト8で62%となり、「厳しさ」が最も重要で「楽しさ」も多少は必要が全体で29%、ベスト8で35%とかなり近い数字になった。一方ベスト4では、「楽しさ」が最も重要で「厳しさ」も多少は必要が47%、「厳しさ」が最も重要で「楽しさ」も多少は必要が56%で逆転した。部活動の志向では、全体・ベスト8・ベスト4とともに「トップを目指す」「そこそこ勝ちたい」「楽しみたい」の順になり競技志向の傾向である。競技力と「勝ちたい」の意識は正比例を示した。特にベスト4で「勝ちたい」の意識が顕著である。競技力がベスト4以上では、「勝ちたい」や「厳しさ」といった意識が極端に違うことが分かった。全体とベスト8では志向に若干の違いはあるが意識は近いと考える。よくベスト4の壁と言われるが意識にも大きな隔たりがあると考えられる。

部活動の休み



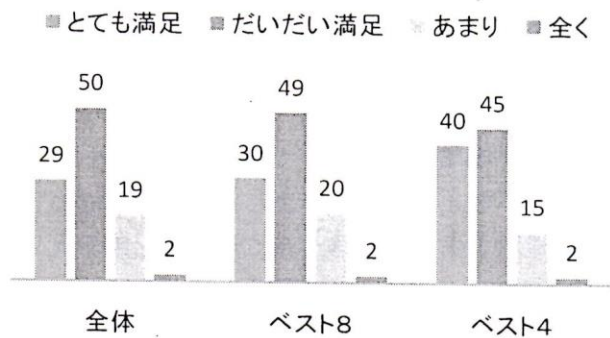
部活動が生活に占める割合



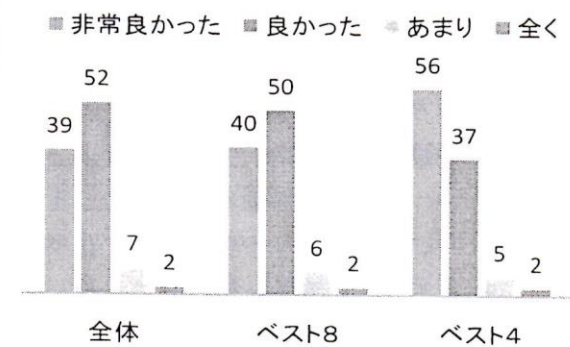
部活動の休みでは、「週1日の休み」が最も多かった。全体で40%、ベスト8で46%、ベスト8で41%である。つづいて「休みなし」が多く、全体で27%、ベスト8で22%、ベスト4で35%である。競技力と部活動の休みとの明らかな相関は少ないと考える。「部活動が生活に占める」割合では、「生活のかなり占めている」が全体で47%、ベスト8で61%、ベスト4で72%と最も大きい。つづいて「生活のまあまあを占めている」が全体44%、ベスト8が37%、ベスト4が21%となった。この2つを合わせる90%以上になり競技力に関係なく部活動が生活の大きな部分を占めていることが分かった。生活に占める割合では、競技力ときれいな正比例になった。

競技力と部活動の休みには相関はない。4割が定期的に週1日以上を休んでいる。ただしベスト4以上になると1/3以上が休みなしで活動している。逆の見方をすると9割以上の生徒が週5日以上活動しており部活動が生活の大きな部分になっていることが分かった。

満足していますか



入部して良かったか



「あなたは現在の部活動に満足していますか」では、「とても満足している」と「だいたい満足している」を合わせると全体で79%、ベスト8で79%、ベスト4で85%になった。競技力に関係なく大方が満足している。ベスト4では他と比較して「とても満足している」が40%と高かった。

「入部してよかったか」では、「非常に良かった」と「良かった」を合わせると全体で91%、ベスト8で90%、ベスト4で93%となった。特にベスト4で「非常に良かった」が56%と高くなった。

競技別の満足感は、全体とベスト8では大きな違いがないと考える。ベスト4になると大きな違いがでてくる。競技力による活動状況に差はなく、競技結果が満足感の違いに結びついていると考える。ベスト4以上になると「大きな魅力」が潜んでいるものとする。ベスト4の壁を乗り越え、さらに目標達成した誇りが大きいと考える。

5 まとめ

運動部活動の魅力の基盤は日頃の練習と部員間の人間関係にありました。目標に向かって、部員全員で良好な人間関係を保ちつつ、しっかり活動できれば満足感が高まっていきます。さらに、スポーツ・運動の本質である運動技能の向上や試合で勝つことができれば充実感も高まり部活動の魅力は相乗的に大きくなります。

運動部活動を行っている生徒の大部分は部活動を生活の大きな部分にしています。我々顧問が少しでも生徒の満足感・充実感が高まるように何らかの形で参加できればと願うところ です。以下、提言とします。

○「満足感」は、仲間との活動の部分で組織として目標を持ちその目標達成に向けて頑張る過程にあります。目標に向けての方向付けや「頑張る大事さ」等の顧問のミーティングが重要になってきます。目標を達成するために頑張っている時や達成された時に満足感が高まることを考えると顧問の関与が大事になります。

○「充実感」は、スポーツ・運動の特性の部分で運動技能が向上して試合ができるようになり、そして勝利することにあります。まずは運動を上手くさせることが大事で、競技の専門的知識・技能が必要です。直接技術指導できない場合でも、合同練習会や外部コーチの招聘など活用する方法もあります。運動技能の向上が図られれば、競技力の向上につながり試合結果も良くなります。また試合には勝ち負けが伴いすべてのチーム・個人が勝てるわけではありません。試合方法を考たり、実力の似たチーム同士の試合やリーグ戦を考える等の対応が望まれます。

○「一人一人」の部分では、男女の意識の差を考慮に入れての指導が望まれます。男子は「勝ちたい」といった競技志向で充実感を求める傾向で、女子は「仲間」や「楽しさ」を重視する傾向です。男女によって目標での「勝利」と「楽しさ」のバランスや練習の仕方を工夫する必要があります。

○競技成績で県大会ベスト4以上の部では満足感が極端に高くなっています。「勝ちたい」の意識や活動日数そして部活動にかける姿勢が他と大きく違いました。目標達成に向けての頑張りの努力そして結果的に目標の達成感があり満足感が高くなったと思われます。一方運動技能も高く、そして試合で高いパフォーマンスが発揮され勝利も得て充実感も高くなったと思われます。運動部活動の魅力を存分に享受していると考えます。全ての生徒がベスト4になればと思います。

○競技成績で県大会ベスト8の部では目標を明確(97%)にしておりチームの士気が高くなっていました。しかし満足感がベスト4以上と大きく違いました。試合結果で目標が達成されなかったところが理由と思われます。仲間との活動が円滑に行われ目標に向けて頑張っているが目標が達成されない高校生の運動部活動の姿がありました。「負けから得ることのほうが大きい」とある専門部長の言葉が思い出され、ここに残します。

○仮説を「所属感・一体感を高めれば満足感・充実感も高まる」としました。研究すれば「所属感」と「一体感」も違うと思います。今回の研究では、そこまで踏み込まず「仲間との活動」までとなりました。適時的でそして一過的な研究も大切ですが、研究成果が再検証され概念化され、さらに研究が継続され深められることが望まれます。